

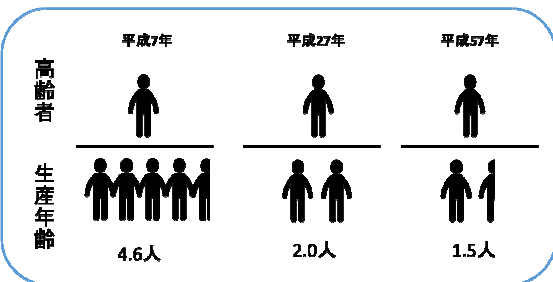
# 人口から考える三谷のすがた

## 三谷地区の人口減少・高齢化が進んでいます。

国勢調査のデータによると、三谷地区の人口は平成7年から平成27年までの20年間で1,157人（約8.2%）減少しました。一方、高齢者人口は1,666人（約78.4%）増加しました。10年後の平成37年ごろをピークに高齢者人口は減少に転じますが、それを上回るスピードで地区全体の人口も減少するため、今後さらなる高齢化が見込まれます。

人口区分		平成7年	平成17年	平成27年	平成37年	平成47年	平成57年
高齢者人口 (65歳以上)	目標値				3,865人	3,776人	3,685人
	実績値	2,126人	2,877人	3,792人			
生産年齢人口 (15～64歳)	目標値				7,044人	6,328人	5,603人
	実績値	9,764人	8,660人	7,638人			
年少人口 (14歳以下)	目標値				1,469人	1,428人	1,410人
	実績値	2,137人	1,757人	1,449人			
総計	目標値				12,378人	11,532人	10,698人
	実績値	14,091人	13,297人	12,934人			

※ 実績値は、国勢調査データに基づき算出（総計に年齢不詳を含む）  
 ※ 目標値は「蒲郡市まち・ひと・しごと人口ビジョン」における目標人口の推計条件を三谷地区に適用して算出



上の表をもとに高齢者（65歳以上）1人に対する生産年齢人口（15～64歳）の人数を計算すると、平成7年当時は4.6人だったものが平成27年には2.0人に減少しています。30年後の平成57年には1.5人にまで減少する見込みです。1人の高齢者を今よりも少ない人数で支えなければならなくなります。

## ご意見募集

ワークショップに参加している方だけでなく、地区にお住まいのたくさんの方のご意見を踏まえて、「地区個別計画」の策定に向けた検討を進めていきます。

- ワークショップで検討されている内容について
- 三谷地区のまちづくりや公共施設について

ご意見をお待ちしています!!



日々の生活で感じている三谷地区や地区の公共施設に関する些細なことでも構いません。

下記のお問い合わせ先まで、メール・ファクス・郵便・持参により、どうぞお気軽にお届けください。差し支えなければ、ご住所、お名前、年齢、性別、連絡先の記載をお願いします。

## 次回ワークショップについて

日時：9月30日（日）  
 午後1時30分～午後4時30分  
 場所：三谷公民館 大集会室  
 内容：施設の再配置プランについて

どなたでも傍聴ができます。  
 傍聴ご希望の方は、  
 右のお問い合わせ先までご連絡ください。

## お問い合わせ先

蒲郡市総務部財務課  
 公共施設マネジメント担当  
 〒443-8601 蒲郡市旭町17番1号  
 E-mail zaimu@city.gamagori.lg.jp  
 TEL 0533-66-1158 / FAX 0533-66-1183

ワークショップについて、  
 詳しくは市HPをご覧ください。

<http://www.city.gamagori.lg.jp/site/management/machizukuri-kokyoshisetsu.html>



## 三谷地区 かわら版 第2号

## 三谷地区 まちづくりと公共施設の将来を考えるワークショップ

### 三谷地区の課題とその解決方法について話し合いました。

蒲郡市では、今年度、三谷地区にある公共施設（小学校・中学校・保育園・児童館・公民館）の将来について、地区にお住まいの皆さまと協働で考えていく機会として、「まちづくりと公共施設の将来を考えるワークショップ」を開催しています。8月5日（日）に三谷公民館にて開催された第2回ワークショップの内容をお知らせします。また、ワークショップで話し合われている内容等についてのご意見を募集しています。いただいたご意見は、ワークショップ参加者の皆さまと共有し、検討を進めていきます。（裏面の「ご意見募集」をご覧ください。）

## 検討の進め方

蒲郡市は、このワークショップでのご意見をはじめ、地区の皆さまのご意見を踏まえて、三谷地区の将来の公共施設の配置や活用方法を示す「地区個別計画」の下図のように段階的に検討を進めていきます。第2回ワークショップでは、「三谷地区の課題」と「課題解決の方策」について話し合いました。



8/5開催  
 第2回ワークショップ  
 三谷地区の課題や課題解決のための方策について意見交換を行いました。



次回以降のワークショップでは、皆さんからいただいたご意見をもとに作成する「施設の再配置プラン」やそれらと比較するための「評価の視点」について検討を行う予定です。

## ご意見を9つの視点にまとめ、各視点について検討しました。

第2回ワークショップでは、第1回ワークショップでのご意見を踏まえ整理した9つの視点をもとに話し合いを行いました。以下は、9つの視点と各視点のもとになった第1回ワークショップでのご意見の抜粋です。

### ① 地区のまとまり

- 三谷祭などの伝統・風習を守る環境を整備する
- 行政区と学校区の違いが一体性を妨げている

### ⑥ 防災・防犯

- 施設を再編する場合は防犯対策を施す
- 老朽化を解消する
- 災害に対応した施設配置

### ② 地区の活性化

- 商業振興など人口減少を回避するための投資が必要

### ⑦ 利便性の確保

- 適切な駐車スペースを確保する
- バスなどの公共交通を再編する

### ③ 学校教育環境の適正化

- 児童数減を考慮して小学校を統合することがポイントになる

### ⑧ 将来負担の縮減

- 施設集中により無駄を解消する
- 空きスペースを活用する

### ④ 子育てしやすい環境づくり

- 放課後の子どもの居場所をつくる
- 保育園の送迎の負担を軽減する

### ⑨ 運営の改善

- 魅力的なソフト展開
- 施設の利用方法・活動実態の見える化
- 予約方法の簡素化

### ⑤ 多世代が活動・交流できる場づくり

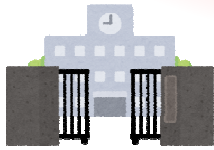
- 子ども、若者、高齢者が交流できる場をつくる
- 学習スペースや元気な高齢者の居場所をつくる

# ワークショップでいただいたご意見

第1回ワークショップでの意見をもとにまとめた9つの視点について、追加すべき視点は、それぞれの課題に対し具体的にどのような解決方法があるのか話し合いを行いました。

- 中学生は体力もあり、自転車通学ができるので中学校から（竹島小に通う）三谷の子は三谷中学校に通うようにすればよい。地域とのつながりを意識しながら育つ段階でもある。

- 西区の子どもの一部は竹島小に通い、上区の子どもも三谷小と三谷東小に通っている。同じ地区で異なる学校に通うのは地域の行事を行う上で不都合がある。



- 竹島小に通っている三谷の子が三谷小に通えば今後学校が成り立つので良い、という意見は三谷から見た話であり、他から見たら異なる意見もあるだろう。

## ①地区のまとめ

- 三谷小学校は地区の中心にあって立地もよく、歴史が古く地域の象徴的な存在だ。地域コミュニティの柱でもあるので何とか残したい。

- 三谷小学校と公民館、保育園、児童クラブを複合化すると、学校から移動することなく様々な活動ができるようになり、子育て世代にアピールできて地域の評価が高まるだろう。

- 小中学校の生活を通して地域への愛着が生まれる。

- 学校を中心に子ども、親、とコミュニティができていく。行政区と学校区のくりが同じことは重要だと思う。

- 三谷地区の高齢化率が上がり、三谷小学校の児童数が減っているのは、住民が増えていた西区の一部を竹島小学校の学区にしたことが原因ではないか。

- 小学校を2つとも残し、それぞれを複合施設にしようか。大きく立地も変わらないので抵抗感も少ないだろう。

- 三谷西保育園を児童館の1階に移転させ、異年齢の子どもの交流ができると良いのではないか。

- 保育園の統合で数が減るのは、子育てしやすいという視点から考えると問題だと思う。

## ②地区の活性化

- 若い人がたくさん住めば自然と活気が出てくると思う。

- 地区の活性化は商業振興だけで達成できるものではない。住みよく子育てしやすい環境をつくり、人口減少を抑えることも活性化にとって重要だ。

- 子育て層が子育てのためではなく自分のために利用できる場が必要だ。そのような場が地域にあれば若い世代も活気づくはずである。

- 三谷地区だけでできる商業振興は限られているので、産業・観光・住宅を含め、もっと広域的な視点から考える必要がある。



- 三谷公民館を三谷小学校に複合すれば、現状の立地からさほど遠くないし、高齢者と子どもなどの多世代交流の場ができる。跡地は「三谷祭会館」にしてはどうか。

- 高齢者と子どもは相性がよいので、高齢者が使う施設と子どもが使う施設を複合化し、お互いがゆるやかにつながるようになると良い。

- 学校で高齢者と子どもが交流できるとよい。

## ③学校教育環境の適正化

- 小学校が統合されると、児童数が増え部活動の種類が増えることがメリットだと思う。

- 三谷小学校と三谷東小学校の再編については判断が難しい。子どもを遠くの学校に行かせることに、安全面や通学面から親の反対はあるだろう。実際に子どもを通わせている保護者の意見を聞く機会を設けてはどうか。

- 複合化する場合は、安全管理や機能分離が必要だ。

- 小学校はできれば統合してほしくない。

- 体力づくり、健康づくりのために学校が徒歩圏内にあることが小学生にとって大切だと思う。

- もし統合するのなら子どもたちの通学が不便にならないようスクールバス等の対策をして欲しい。

## ④子育てしやすい環境づくり

- 共働きの家庭が多いので、放課後も学校の中で安全に過ごせるとよい。

- 図書館が遠く、地区内に子どもたちが勉強する場がない。中高生が友達同士で勉強できる場が必要である。



- みや児童館の1階に図書館や学習スペース、若年層の集まる場を整備できるとよい。児童館機能が拡大され、中高生の利用も増えるだろう。

- 財政のことは重要だが、「三谷の将来を考える」「住みよく子育てしやすいまちづくり」という視点も忘れないでほしい

- 空き教室や空き施設などを有効活用して、子どもたちが放課後過ごせる場や若者や子育て層が交流できる場などを整備できるとよい。既存施設の活用なので新しいものを作るよりもコストがかからないだろう。

## ⑤多世代が活動・交流できる場づくり

- 多世代交流の場作りは世代ごとに利用できる場、交流できる場を準備してからだと思う。

- 学校で多世代交流などの活動を行う場合は、教員の負担が増えないよう配慮する必要がある。

- 高齢者と子どもがイベント時に交流する程度なら良いと思うが、日常的に共存するのは難しいと思う。

- 交流を生むためには、施設の複合化だけではなくソフト面の工夫が必要だ。

## ⑥防災・防犯

- 三谷西保育園を三谷小学校に複合化すれば、津波・高潮からの安全が確保できる。

- 三谷公民館における津波浸水の危険性に対応するため、浸水に耐えられるように構造や高さを強化するののも一つの手段である。

- 三谷公民館と三谷西保育園は海に近く災害の危険が高いので、安全な立地に移転すべきだ。



- 三谷公民館と三谷西保育園の安全性確保を考えると現状の場所からあまり離れていない三谷小学校に複合するのが良いのではないか。

- 最近災害が多いので、統合や複合化によって避難場所が減ることは心配だ。

- 三谷小学校と公民館や保育園を複合化することで、利用者の交通アクセスも集中して利便性が高まる。

- 学校に複数の機能を複合させるとしたら、どの学校も地域の中心に位置しているわけではないのでアクセスの問題が出てくる。土地が確保できるなら、地域の真ん中に小学校を集約できるとよい。

## ⑦利便性の確保

- 住みやすいまちづくりのために交通アクセスに配慮が必要だ。

## ⑧将来負担の縮減

- 将来費用推計の根拠がよく分からず、見通しも甘いように感じる。もっと正確な見通しが立てられないか。

## ⑨運営の改善

- ネットを活用して施設の様子や予約状況が把握できるようにしてほしい。

- 公民館は誰でも利用できる施設だが、いつも利用している団体がよい時間帯を優先的に予約しているのが実情なので、気兼ねなく利用できるようなシステムを導入しないとますます若者にとって遠い存在になってしまう。